

2 1 0

こんにちは。TOP の大井です。

5 期生 M さん受験戦記第 2 回です。

TOP の体験授業に大きな刺激を受けた M さんは、すぐに入会を決めました。

そして持ち前の負けん気と努力ですぐにクラスを中心へと駆け上がっていきました。M さんより能力の高い生徒はいましたが、M さんより努力できる子はいませんでした。

ある日、努力家が目指す最高峰の学校だと、桜蔭中の話をしました。言わずと知れた女子校の頂点校です。すると翌日には、「志望校決まった。桜蔭に行く。」と言っていました。このまっすぐ素直に憧れられる力もまた彼女の美質でした。

この想いがまた勉強を加速させ、小 6 になる頃にはクラスで 1 位を取るまでに成長していました。

とはいえ、中学受験は一筋縄ではいきません。

学年が上がり、レベルが上がるにつれて、壁に当たることも増えてき

ます。誰もがその壁を超えずに成長することはできません。難関校ではなおさらです。壁は決して立ちはだかる敵ではなく、成長へのジャンプ台に他ならないのです。

しかし、Mさんはひとたび壁に当たると、これまでのようにはもがいたり抗ったりしなくなりました。周りに甘い子が多かったことも手伝い、いつしか彼女は小さなお山の大将でいることに満足するようになりました。

「あと少しで満足するのはやらないと同じだ。やりきれ。」

私は何度もそう言って励ましました。

それでもMさんの失速は続きました。9月に最大手の模試などで桜蔭合格60%を取っていたのが、11月には30%に下がりました。もっと取れる力はあるのに…と訝しく思っていると、Mさんが解き直し時に答えを写していたことが発覚しました。

さらに作文の中で「私には特に特別大切な人はいない。」という内容を書いていたこともありました。

このままではいけない…。

そう思った私はある国語の授業でこんな話をしました。それは自分が

名選手になることだけに囚われて、野球をやる本来の楽しみも、チームメイトとの和も忘れてしまう「ひとりぼっちの野球」選手が、また人と繋がり合う野球の歓びに目覚めていく。そんなテーマを扱った授業でした。

「野球だけじゃない。どんな道でも人に感謝できない者は、他人の気持ちを考えられない者は、みんなひとりぼっちだ。ひとりぼっちで成し遂げられる道なんてどこにもない。」

その話は M さんにも響いたようでした。

(次回につづく)

2020年6月10日

大井雄之